

会 議 録

会議名 (審議会等名)		相模原市廃棄物減量等推進審議会		
事務局 (担当課)		廃棄物政策課 電話042-769-8336(直通)		
開催日時		令和5年7月31日(月) 13時30分～15時10分		
開催場所		エコパークさがみはら(相模原市立環境情報センター)2階学習室		
出席者	委員	13人(別紙のとおり)		
	その他	0人		
	事務局	22人(脱炭素社会・資源循環推進担当部長、廃棄物政策課長 他20人)		
公開の可否		可	不可	一部不可
公開不可・一部不可の場合は、その理由		傍聴者数 0人		
議 題		<p>1 開会</p> <p>2 議題 (1) 第3次相模原市一般廃棄物処理基本計画の改定について ア 数値目標に対する達成状況 イ 施策体系・事業(案) ウ 答申(案)</p> <p>3 報告 (1) 北清掃工場の建替整備について</p> <p>4 その他</p> <p>5 閉会</p>		

議 事 の 要 旨

主な内容は次のとおり。

1 開会

定足数の確認の上、開会した。

2 議題

竹田会長の進行により議事が進められた。

(1) 第 3 次相模原市一般廃棄物処理基本計画の改定について

ア 数値目標に対する達成状況

事務局から説明を行った。

【質疑事項】

(落合委員) 目標値を見直すことについて、3 ページの最終処分量等は、年度により増減しているが、目標値を見直した結果、目標値に届かないことも考えられるのではないか。

(事 務 局) 令和 9 年度までの計画であり、大きな流れとして減らしていくように取り組んでいきたいので、目標値を見直す方向が良いと考えている。また、最終処分場を延命化するためには、埋立量を減らすことが大きな課題であり、最終処分量の目標値を下げたいと考えている。

(竹田会長) 5 ページの食品ロス排出量について、ごみの総排出量が減少しているが、目標値と比べるとずいぶん高い実績値になっている。事務局としてどのように考えているか。

(事 務 局) 食品ロス排出量の算出方法については、ごみ質測定調査の中で、指定した地区から収集したごみの中にある食品ロスの割合から推計している。食品ロスの割合は、毎年度ばらつきが生じており、今後は、目標値を見直す必要があるのか、見せ方を工夫していくのかなど、検討する必要があると考える。

なお、ごみの総排出量の減少ほどではないが、ここ数年、ごみの中の食品ロスの割合は減少しており、令和 2 年度から令和 4 年度にかけては、食品ロス排出量は減少している。

(竹田会長) 食品ロスの削減については、宴会時の「3010 運動」といった取り組みもあったと思う。そういった啓発活動をしっかりとやっていかなければならない。

(中島委員) 最終処分量の目標値の見直しについて、ごみそのものを減らしていかなければいけない、その中で最終処分量を減らしていくということだと思うので、ごみ全体の排出量の目標値自体も下げるべきと思う。最終処分量を下げるのであれば、ごみの総量の目標値を少し高い目標をもって取り組むべきであり、それに向けた具体的な施策に取り組んでいくべきである。

(事務局) ごみの総排出量については、計画目標値を下げる方向で考えており、資源循環グループ全体で取り組みを進めていきたい。

イ 施策体系・事業(案)

事務局から説明を行った。

【質疑事項】

(藤倉委員) 家庭系ごみの削減の中に、プラスチックごみの削減の記載はあるが、事業系ごみについては記載がない。今までは過剰包装やレジ袋の削減といった働きかけがあったと思われるが、それがなくなったことにより、事業者に対するプラスチックごみ削減の働きかけが弱まったように見える。

(事務局) 事業系一般廃棄物の組成分析調査の中で、産業廃棄物が一般廃棄物の中に混入していることが分かったので、4Rに関する情報発信や、適正排出の徹底といった取り組みの中で、指導や啓発を行っていききたい。

(藤倉委員) 指導や啓発は徹底してやっていただければと思うが、プラスチック使用量そのものの削減、上流側への働きかけというのは何もないのか。

(事務局) 4Rでは、ごみを出さないということも取り組みに入っているので、その中で啓発をしていきたい。

(藤倉委員) プラスチックという言葉を出した方が、市民や事業者には分かりやすいと思う。実質的なところで、全体的なプラスチック使用量の削減を、打ち出していただきたい。

(中島委員) 4ページの「ごみ処理手数料の在り方に関する検討」について、有料化の話をする際に、手数料が適切であるかは一番大切だが、同時に、ごみの減量を進める上で非常に重要な手段と思っているので、有料化の話は「家庭系ごみの減量化・資源化」にも記載しておくべきと考える。

また、最終処分場について、令和19年度には次の処分場が必要になり、そのために計画的に整備を進めていくのは分かるが、できるだけ最終処分場に埋め立てる量を減らしていくということで考えていく必要がある。4ページに「ごみ処理段階におけるさらなる資源化」と記載があるが、埋め立てなくても済むような検討も行っているのかを確認したい。東京の多摩地域では、焼却灰を使ったエコセメントを作り、埋立量を平成30年度以降ゼロにしているという話も聞いている。

(事務局)「ごみ処理段階におけるさらなる資源化」というのは、燃やした後、いかに最終処分場に埋め立てないで済むかという話であり、資源化のために色々な検討をしていきたい。

(事務局)家庭系ごみの有料化の検討についての記載については、全体的な整理として、再掲事業を集約している。計画を策定する上で、リード文を修正等していく中で、ご意見を反映させていきたいと考えている。

(中島委員)家庭系ごみの有料化は、できれば「有料化の検討」ではなく、「有料化に向けた検討」ぐらいの表現にさせていただき、真剣に進めてもらいたいと思う。今年、市の自治会連合会でも、ごみの大幅な減量化に向けた推進の要望を提出する予定である。

また、自治会がごみ集積場所の管理をしているが、自治会の加入率が減少し、管理しきれなくなっているので、市と協働でやりたいという提案をしている。5ページの「ごみゼロに向けた協働の推進」に、集積場所についての記載があるが、市がステーション方式でごみ収集をやっていることを考えれば、協働ではなく、例えば4ページの「ごみ処理体制の整備」に、記載をしていただきたい。

(事務局)有料化については、現計画が令和9年度までの計画期間の中で、これまでよりも踏み込んだ取組にしたものと考えている。

「ごみ・資源集積場所の設置、維持及び管理についての検討」について、様々な課題があると認識している。その事情も考慮したうえで、資源循環グループ全体で取り組んでいこうということで、「ごみゼロに向けた協働の推進」に、記載したものである。

(中島委員)「ごみ・資源集積場所の設置、維持及び管理についての検討」については、「ごみ処理体制の整備」に記載するように、ぜひ検討していただきたい。

(大河内委員)前提として、記載されている「取組の柱」については、計画の中では変更しないということか。

(事務局)今回は中間見直しということで、庁内で議論した結果を踏まえ、変更しないという考えである。

(大河内委員)5ページ「取組の柱 ごみゼロに向けた協働の推進」について、以前は、再掲事業の掲載ではあるが、資源化促進や、ごみゼロというものが強く打ち出されていたと思う。それがなくなったことで、ごみゼロに向けた部分が弱くなったと感じた。「取組の柱」は変更しないということだが、可能であれば、文言をもう少し見直すと、実施事業との適合性が良くなると思う。

ウ 答申(案)

事務局から説明を行った。

【質疑事項】

(竹田会長)廃棄物減量等推進員アンケートのクロス集計結果について、ごみの有料化や戸別収集の考え方に、地域性があると思った。自治会でこのアンケート結果を使用したいが良いか。

(事務局)お使いいただきたい。

(藤倉委員)答申(案)への意見は8月14日までにとのことだが、食品ロス削減推進計画については、その前に委員に示されるのか。

(事務局)答申は9月を予定しており、食品ロス削減推進計画についても、あわせて行うが、10月頃には一定のところまで持っていきたい。完成は令和6年3月を予定している。

(藤倉委員)9月の答申では、現在市では食品ロス削減推進計画を作っているの、その計画の中に盛り込みたい内容等の意見を出せば良いのか。

(事務局)そのようにお願いしたい。

(藤倉委員)3ページ「3 施策の進捗状況と課題」の(1)アで、「生ごみの比率は減少しているものの」と記載があり、先ほどの話では、ごみの量は減少しているが、食品ロスの割合が高いとあった。その関係性はどうか。

(事務局)ごみ質測定調査を行った結果、生ごみの比率が、平成29年度は33.4%であり、令和4年度は30.9%であったことから、生ごみの比率が減少しているということである。

(藤倉委員)生ごみの比率が、平成29年度と令和4年度で減少し、更に、ごみ排出量自体も減少している。ごみ量も減って、生ごみの割合も減ってい

るのに、なぜ食品ロス量が増えているのか。

(事務局) 生ごみの内訳に、食品ロスがある。食品ロスについては、平成29年度は7.6%で令和4年度は9.8%になっており、食品ロスだけを見ると、その割合が上昇している。

(藤倉委員) 全体の排出量は減っているが、食品ロスの割合の増加分で、食品ロス排出量の実数が増加しているということか。

(事務局) そのとおりである。

(藤倉委員) 「生ごみの比率は減少しているものの」という記載について、もう少し誤解のない表現にすべきと思う。

(中島委員) 答申(案)だけでなく、もう少し具体的な資料がないと、答申についての議論ができないと思っている。また、9月の答申の後の流れがよく分からない。計画が決まり、それに対して意見を述べる機会はあるのか。

(事務局) 次回の審議会の中で答申をお示しする際に、参考となる資料を示したい。また、基本計画の改定案については、必要に応じて審議会を開催するなど、計画の内容を別途確認する場を設けたいと思っている。

(中島委員) 答申を出した後も、委員が資料を基に意見を述べる場はあるという認識でよいか。

(事務局) 今後パブリックコメントも行う必要があり、その内容により修正や見直しが見込まれる。パブリックコメントの前には、計画案を確認していただくことになる。

3 報告

(1) 北清掃工場の建替整備について

事務局から説明を行った。

【質疑事項】

(中島委員) 3ページ「3 相模原市の総ごみ排出量と人口の推移」について、ごみの減量化を図っていくことで、令和19年度のごみの排出量は減少が予想される。大規模な工場を建てると、効率的に燃焼させるために、ごみが減らないという事態になりかねないと思う。ごみの排出量予測はきちんと行い、適正規模の清掃工場を検討していただきたい。

「4 将来のごみ排出量と清掃工場」について、南清掃工場の処理能力が年間12万960tとなっているが、処理能力の算出方法を確認したい。

(事務局)両清掃工場とも3炉で運用し、点検整備等を行いつつ運転しているが、365日運転できるわけではなく、老朽化も考慮して、年間約240日の運用が基本となる。南清掃工場の処理能力525t/日に運用日数と緊急時に対する定数0.96を掛けたものである。

(須藤委員)北清掃工場は、南清掃工場以上のものになるのか。

(事務局)ごみの量が今後減少する予測であることを踏まえ、最適な大きさとして、現在の北清掃工場の7割程度にできると考えている。

(須藤委員)北清掃工場を新しくするにあたって、生ごみを資源化する施設も併設してもらいたい。生ごみを回収して堆肥化というのは難しいかも知れないが、段ボールコンポストで発酵処理したものを施設に運び堆肥化するようなものを、考えていただきたい。生ごみ処理機などでごみを減らしているが、全体的にごみを減らしていけば、焼却炉の規模も小さくできるので、検討していただきたい。

(事務局)検討したい。

(藤倉委員)相模原市の総ごみ排出量と人口の推移が、合併時に8万人程度増えているが、総ごみ排出量は緩やかに減少している。これは正しいのか。

(事務局)ご指摘のとおり合併時に人口が増加しているが、ごみ排出量は実際に減少している。ごみ減量の一定の効果が出た結果と考えている。

4 その他

事務局から今後のスケジュール等について説明した。

5 閉会

相模原市廃棄物減量等推進審議会委員出欠席名簿

(五十音順・敬称略)

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	安藤 正義	相模原市老人クラブ連合会		出席
2	石川 冬子	さがみはら消費者の会		出席
3	内田 勝久	神奈川県立学校長会議 相模原地区会議		出席
4	大河内 由美子	麻布大学		出席
5	近江 良一	相模原商工会議所		出席
6	落合 幸男	相模原市農業協同組合		出席
7	加賀谷 育子	特定非営利活動法人 男女共同参画さがみはら		欠席
8	篠原 直彦	公募		欠席
9	須藤 みね子	さがみはらリサイクル連絡会		出席
10	竹田 幹夫	相模原市自治会連合会	会 長	出席
11	中島 勝平	相模原市廃棄物減量等代表推進員		出席
12	原 正弘	神奈川県県央地区廃棄物処理業協議会		出席
13	藤倉 まなみ	桜美林大学	職務代理者	出席
14	堀川 伸晴	相模原市子ども会育成連絡協議会		欠席
15	山崎 勇貴	津久井地域不法投棄防止協議会		欠席
16	山田 とし子	相模女子大学		出席
17	渡部 一浩	相模原廃棄物対策協議会		出席